

総合交通体系グループ紹介

～新組織 第1回 有田政策企画官（総合交通体系担当）～

政策企画官（総合交通体系担当）の有田です。今回は、今ここにある交通体系の改善をどう進めるかについて考えてみました。

総合的に交通体系を捉えるためにも、対象を分析的に考察してみましょ。陸上交通についてみると、交通体系には人、物といった移動主体、それらが移動する空間（交通路）と、移動するための手段（徒歩、乗物）といった要素があります。

交通路は、不特定の移動手段（徒歩、乗物）が利用できる公共交通路（例 道路）と、専用の乗物を対象とした専用交通路（例 鉄道）に分けられます。また、その設置主体は国等の公共の場合と企業等の民間の場合があります。

乗物については、移動者自らが所有し運転する場合（自転車、自動車 等）と移動者の自らの運転に供する目的で企業等が所有し貸し出す場合（レンタサイクル、レンタカー 等）、そして移動者に交通サービスを供する目的で企業等が所有し運転する場合（タクシー、バス、鉄道車両 等）があります。

バス、鉄道等の交通サービスが提供されている地域では、目的地への移動に際し複数の移動手段を利用することが一般的であり、乗換場所（鉄道駅 等）と乗換待ち時間も分析していく上で欠かせない要素になると思います。

さて、このように交通体系を分けて見た上で、皆様の関心のある地域・領域において交通体系の現況、将来の課題としてどのようなものが思い浮かぶでしょうか。

まず、乗物についての懸念はありますか。今は多くの方が自動車を運転しているが、何歳まで運転し続けることができるだろうか。また、バス、鉄道等の交通サービスの利用者は減少気味であり、いつまでサービス提供が受けられるのだろうか。などなど。

交通路についてはどうでしょう。施設の老朽化が進み増大化が懸念される維持更新費用の捻出はうまくできるだろうか。都市の低炭素化に向けて交通路空間の再配分

乗り物だけを総合化すると・・・



バス+船



車+飛行機



バス+電車



歩行者+馬(?)



やはり、交通体系を総合化しましょう

も必要と思うが、利害調整はうまくできるだろうか。などなど。

交通体系は、歴史的空間的な存在である交通路と、そこを行き交う移動手段によって成り立っています。この改善を図るには、可能な限り客観的なデータに基づき現況を評価し、将来の交通動向を予測し、中長期的な国土、領域、あるいは都市建設計画と一体となって交通路の改善を図り、あわせて交通サービスに関する懸念を払拭できるよう取り組むことが求められます。

このようなアプローチにおいては、住まう人々、集う人々の受益と負担の関係、交通路、乗物の担い手のコストや採算性の関係を考え合わせて、長きに渡る時間軸の中で、関係者が同じ方向を目指せるよう粘り強く調整していくことが重要になろうかと思えます。

当総合交通体系グループは、全国幹線旅客純流動データ、交通路の整備状況の評価データ、各地域で培われたモビリティ確保のノウハウなど、今ここにある交通体系の改善に携わる方々に少しでも役立つ情報の収集、整理、提供に取り組んでいます。データ提供等の御要望がございましたら、どうぞお気軽にお尋ね下さい。

出展：日本水陸観光株式会社 (<http://www.japan-ducktour.com/suirikusha.html>)

テラフージャ社「トランジション」(<http://www.terrafugia.com/faq.html>)

JR 北海道 (<http://www.jrhokkaido.co.jp/new/dmv/about.html>)

Wikipedia (<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B1%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%82%A6%E3%83%AD%E3%82%B9>)